

平成26年度病害虫発生予察指導情報

(ブロッコリー：べと病)

平成26年11月4日

鳥取県病害虫防除所

1 情報の内容

ブロッコリーほ場においてべと病の発生が多くなっている。今後の気象条件によっては多発生する可能性があるため、発生ほ場では追加防除を行う。

2 情報の根拠

- (1) 10月28日現在、定点調査ほ場におけるべと病の平均発病度は14.3(過去10年間の平均発病度0.8)であり、平年に比べ発生量が多い(表1)。
- (2) 本病は20℃前後で降雨が多いと発生が多くなる。11月上旬以降の降雨により、今後発生量が増加することが見込まれる。

3 防除上注意すべき事項

- (1) ブロッコリーの晩生品種では、花蕾にべと病が発生しやすいため、防除を徹底する。
- (2) 薬剤は、1月～3月に収穫する作型ではフォリオゴールド1,000倍液を11月上旬～中旬頃に散布する。それ以降の作型でも発病がみられる場合は、レーバスフロアブル2,000倍液、ライメイフロアブル2,000倍液等を追加散布する。

表1.ブロッコリーほ場におけるべと病発病状況(10月28日調査)

	調査ほ場数	発生ほ場数	発生ほ場率(%)	平均発病度
県内全域	7	7	100	14.3
(参考) 平年値	-	-	14.2	0.8

調査ほ場は大山町5ほ場、北栄町は2ほ場

(参考) 平年値は11月上旬調査における、H10～19年の平均値

表2.ブロッコリーべと病の防除薬剤(平成26年10月28日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用回数	使用時期
フォリオゴールド	1000倍	2回以内	出蕾前、但し、収穫21日前まで
ライメイフロアブル	2000倍	4回以内	収穫7日前まで
レーバスフロアブル	2000倍	2回以内	収穫7日前まで